

## 令和8年度 子供の読書活動優秀実践校・園・図書館・団体（個人）

# 文部科学大臣表彰

文部科学省では、子どもたちの読書活動を推進するために、特色ある優れた実践を行っている学校・園・図書館・団体（個人）に対し、その功績をたたえ文部科学大臣表彰を行っています。本県からは、以下の3団体が選ばれました。

## 《活動紹介》

### （村山市立西郷小学校）

村山市立西郷小学校では、読書活動の基礎・基本を大切にして、児童・教職員そして地域とともに「みんなで読む」読書活動を広く・深く展開しています。当該校における「子供の読書推進活動」のポイントは、次の4点に整理することができます。

- 1) “西郷が大好きな子ども”の育成のための地域ブック（山形コーナー）の設置〈基礎事業〉
- 2) “本好き児童”育成のための「読み聞かせ」活動の積極展開〈基本事業〉
- 3) 多彩で多様な読書教育・読書活動の推進〈6つの応用事業〉
- 4) 市立図書館と市教育委員会のマルチ連携による読書推進〈連携事業〉

1及び2は、読書活動の「基礎・基本」的な取組、3及び4はその応用編としての取組となっており、特に4は、「読書シティ」を宣言する市の取組と歩調を合わせた連携事業になっています。当該校は、学校教育目標である、「自分で考え、たくましく、しなやかに活動する力」を育成するために、読書活動は非常に重要な活動であると捉え、力を入れています。

### （山形県立北村山高等学校）

教育課程全体と関連付けた学習センター年間計画を開校当初より毎年策定し、学習センター担当教員及び学校司書が属する教務課（令和7年度より教務総務課）を中心とした体制の下で、全校が一体となって読書活動の推進に力を入れています。平成13年度より始まった通年朝読書は25年間途切れることなく毎年実施し、全校一斉読書会や学習センター便り発行などの学習センター委員会活動、公共図書館との連携強化（令和5年度～）を進めてきました。これらの取組により、生徒の年間平均貸出冊数が1人当たり3.8冊（平成26年度）だったものが、令和2年度に10冊を超え、令和5年度には27.5冊に増加しています。また、読書への興味・関心を引き出せるよう、季節や時事に合わせたテーマ展示（令和5年度～）を行っています。教室と管理棟の間に位置する鍵のかからない広々とした学習センターは、通路と一体のオープン空間になっており、いつでも図書の閲覧や学習が可能で、生徒及び教職員が常時利活用できる空間を生み出しています。入学前には読書への苦手意識を持っていた生徒も、本校での継続した読書活動を通して本を身近に感じることができ、卒業後の継続した読書習慣への礎を築いています。

### （加藤 美穂子 氏）

司書、絵本専門士の資格を持ち、自ら子どもの読書活動を支援する団体「子どもの読書サポートアシード」を立ち上げ、酒田市が子ども読書推進計画を策定した平成23年度以降、親子手作り絵本講座、赤ちゃんの読み聞かせ教室、ブックスタート事業、読み聞かせボランティア講座等、長年にわたって本市における子ども読書活動を支援し、子ども読書の専門家としての観点から指導してきました。また、平成27年度から山形県図書館協議会委員を務めるほか、JPIC（一般財団法人出版文化産業振興財団）読書アドバイザークラブ山形・宮城支部長を務めるなど読書普及活動にも尽力しています。